

関西農業史研究会々報

No 7. 1979. 7. 27

第20回例会は、下記の要綱で開催され3名が参加した。本研究会を
回を重ねて20回を迎えました。1977年6月からです。早二年
以上がたちました。今後、更に研究会の内容、参加人数の発展を
目指し、会員の皆様の一層の協力をお願いいたします。研究会とし
て、統一の研究テーマを持ってやっていくというのを、妙案だと思
いますが-----

第20回例会 1979. 6. 29
中田謹介氏「農稼業事と大蔵永常」

【報告要旨】

私は「日本農書全集」の編集実務にたずさわっている。各巻の
刊行ごとに原著者の子孫をたずね、刊行のあいさつをし、原著者
に因んで資料類などを撮影し、同全集の口絵写真ページの編成を
している。

ところで原著者について全く不明の書が現われて頭をかかえた。
「湖東 児島如水著 孫徳重校」になる「農稼業事」である。そ
して、同書を読めば読むほど謎が深まり、同時に大蔵永常の本書
へのかけわりの影が濃くなってくる。主な疑問点は次のようだ。
た。

①文中に地名、人名がほとんど出てこない。著者の紹介も
ない。

②のちに大蔵永常の著す『農稼業事後編』序文と『豊稼録』
文中に、永常は、「如木・徳重」と自分との関係を書くが、
この両書での証言は完全に食い違う。『豊稼録』では「農
稼業事の一部を私(永常)が書いた」とする。

③「施本 湖東 耕雲舎」とする『農稼業事』もあるが正
規の書肆による出版のものもある。目次で大風呂敷を広げ内
容、構成と大そう異なる書もある。内容、構成通りの目次の
ものもある。一体、本来的な『農稼業事』とはどんなものか。

④如木も未詳だが、孫徳重もまた不可解な人物である。「
近江の造り酒屋の主人で、かEわら農も営む人」と永常は
言い、本人は「私は畿内の村々へEびEび出かけ、棉の栽
培について詳しく教えた」という。果して棉作後進地で
ある近江の人が先進地畿内の農民へ棉の技術指導ができたで
あろうか。また「徳重」という名は奇妙。つまり大蔵永常の
通称は「徳兵衛」、彼の息子の名は「重兵衛」、二人の名の
頭文字を重ねると、何と「徳重」となる。

以上のような疑問点から、私は『農稼業事』著者、著者に
ついての謎の解明にあたった。十三セット、十二種類の『農
稼業事』の検討により、本来的な本書の姿を推測した。

また『老農茶話』、『豊稼録』、『綿圃要務』、『除蝗録(後編)』、『農家益』、『再種方(附録)』、『豊稼業事後編』など永常の諸著作の内容や記述と本書との類似点、相異点を調べることにより、全五冊の『豊稼業事』のうち「少なくとも四冊は大蔵永常が著作したものである」と推論するに至った。調査の副産物として本書に追従する類書が多く著され、中には海賊版もどきの書『農術広益録』まであることを知った。本書で示される「堆穂雑穂説、掛干しや桶作技術、綿作技術」が近世後期の農業に新鮮かつタイムリーに迎えられたことを示している。

詳細については『日本農書全集7巻』で報告しているのでご一読願いたい。今後『豊稼業事』「兒島如水」の解明に志される方が現われることを期待する。同時に、不明な部分の多い近世農書をめぐって、研究のすすむことを願っている。何しろ本全集製作は、しんどいことこの上ない。

~~~~~\*~~~~~\*~~~~~

### 【討論要旨】

(1)はじめに人物や地名についての討論がなされた。①兒島徳重なる人物の存在を確かめる必要があるが、明治の壬申戸籍などを調べればわかるのではまいかということであった。②湖東の地名については、十分な確証は得られず、手がかりなし。③次に、仮に大蔵永常が著者であったとすれば、何故に名前をふせる必要があったのかが議論された。ゴーストライター説、ペン

ネーム説等、いろいろ意見は出たが、こゝでい、た結論は出なかつた。④ただ、中田氏から農書の普及過程について、葉売の行商人によつて葉の「おまけ」として渡されることもあつたのではないかという指摘があつたのは、興味深かつた。

②次に本書の内容について、討論が行なわれた。①オ1分冊に出てくる「浜田」をどのように理解するか。その記述からして、琵琶湖岸と推測されるのではという意見が出され、オ1分冊については、近江の農業事情をある程度、反映したものであるうということになつた。そのため、オ1分冊は入蔵・永常の著作とはいふかに断定しがたい。②害虫駆除のための験由使用について、文化七年版の『豊稔録』では験由使用を認めてゐるが、文政八年版の『豊稔録』では言及してゐない。この変化の中で、永常執筆分の『豊稔業事』はいかなる歴史的的位置を占めようかが議論された。③最後に、『豊稔業事』には極めて異本が多いのをどのように理解するかが古題となつた。本書が普及した理由として、テーマが多岐にわたることと、雄辯雄辯説を判と体験を基に形勢的に見て述べてあり、親念性がないことなどが指摘された。

★ ★ ★  
**オ21回例会 9月8日(土)20~** 京大農経  
5F会議室  
飯沼先生をはじめ多くの会員の先生方が、中国産部の農業視察に出かけられました。オ21回例会はその報告会を計画しております。御期待下さい。